

えりもしやくなげ

発行者 教育長 川上松美 (代)01466-2-2525

http://www.town.erimo.lg.jp/section/

kyouiku/sg6h94000000pqh.html



「えりも中のいじめの取組」 中高の生徒会が、いじめ撲滅宣言

○10月7日、えりも中学校でいじめ撲滅集会や先輩の講話、宣言などが行われました。

○この取組は毎年行われ、えりも高校生徒会の応援がある中で、いじめ撲滅宣言や昭和54年度生まれの「54年の会」の皆さんからのTシャツ贈呈などがあります。Tシャツは新一年生に送られて、全校生が着用する中で、いじめ撲滅の取組を行い意識を高めました。

54年の会の五十嵐庸公さんが講話



五十嵐庸公さんが熱く語ってくれました

みなさん、こんにちは。今年でいじめ撲滅集会も8回目となりました。私たち54年会はこのえりも中学校、そして、えりも高校の卒業生54名で平成17年に結成しました。

各地域の秋祭りから始まり、灯台まつりやうに祭りなどで出店し活動して、その売り上げをえりも町のために使いたいと、みんなで考えていたところ、「ピンクTシャツ」の話聞き、「それならば、中学生のみんなに届けたい」と話がまとまり、この様な運びとなりました。

最近ではコロナの影響で思うような活動はできていませんが、私たち54年会は皆さんの素晴らしい活躍を感じ応援したいと思っています。生徒さんたちからすれば、大変、身勝手な行動かもしれませんが、私たちも中学校時代に今考えると少なからずいじめはあったと感じます。「どうしてあの時あんなことをしてしまったのか？どうして手を差し伸べ助けることができなかつたのか？」など感じた学生時代、そして今もそう感じる人がたくさんあります。

みんなで生きていくなら、楽しい方がずっとずっといい。すごく素敵な学生生活を送ってもらいたい。共同生活の大切さやコミュニケーション、そして助け合うことを学び、団体行動の中で一人の人間としてどんどん成長してもらいたいと私たち54年会は願っているからです。

このコミュニケーションこそ、これから一生、人と接し、数年後には同級生や一つ先輩後輩の垣根を越え様々な世代と生涯を共にしなければなりません。今の時間をみんなで大切に共有し、学校生活を楽しく生き抜いてくださ

い。

このピンクTシャツも、たった二人の少年の行動で全世界に広がりました。この未来は、皆さん一人一人の行動や思いを伝え、これからたくさんの人々の心を動かして進んでいくと私たち54年会は願っています。

昨年は「ありがとう」の大切さをお話しました。ありがとうを増やすだけで自分もその周りの皆さんも和んでしまう。「感謝に勝る開運方法はない」と言われています。本当に素晴らしい言葉です。

「ありがとう」を増やして、今まで以上にポジティブに充実した学校生活を過ごしてください。

えりも町人権擁護委員の皆さんも訴え



○町の人権擁護委員（加藤弘子さん、神田眞弓さん、鍵谷俊一さん）の皆さんは毎年、中学校を訪問し、集会の中で壇上に立って、いじめをなくそうと呼びかけてくれています。

○このような地域の方の参加は、まさに地域学校の具体的な実践として意義あることです。



○えりも高校の生徒会とえりも中学校の生徒会が『STOP いじめ』を掲げて、4つの宣言を朗読し、全校生に呼びかけました。

最後の水泳学習

えり小6年生が着衣水泳の体験



○10月7日、えりも小学校6年生が着衣水泳の体験授業を行いました。

○6年生は準備体操を行った後、衣服を着たままプールに入り、担任の菊地里美先生から着衣水泳の仕方について説明を受けて体験をしました。



えりも小の5年生、家庭科の授業から



○10月11日(月)10時から12時まで、日高教育局長と教育長で学校訪問を行いました。
○授業は、1年「算数」2年「算数」3年「体

育」4年「算数」5年「家庭科」6年「理科」ひまわり1「算数」ひまわり2「国語、算数」を参観しました。どの児童も一生懸命、先生の話真剣に聞いて学習していました。



小学生がバイオリンの演奏を聴きました



○10月19日と20日に演奏会が開かれ、19日には笛舞小・えりも岬小・庶野小の児童、20日にはえりも小の児童が鑑賞しました。きれいなバイオリンの音色に聞き入っていました。